

## 光が丘さくら幼稚園経営計画

練馬区立光が丘さくら幼稚園  
園長 檀原 雅恵

年々幼児数が減少し、学年で一緒の経営として複数担任型とした学級経営を始めた。4人の学級担任と介助員を始め、主事、事務、預かり保育補佐員など園児を取り巻く大勢の幼稚園のスタッフが園長、副園長と共に「チームさくら」として「幼児期は人格形成の基礎を培う重要なものである」ことを念頭に、幼児が多様な人との関わりの中で、様々な体験を積み重ね、個性を生かし、温かい人間関係のもとで教育活動に取り組めるように援助・指導を進めていく。保護者、地域の方々に幼稚園が支えられていることに感謝し、幼稚園の教育への理解を得るための努力を惜しまず、子どもたちを共に育てていくことができるように力を尽くす。令和5年12月に公表された「こども大綱」の「子どもまんなか社会」につながるよう、一人一人の幼児が、自己肯定感をもち 遊ぶことが大好き！ 友達が大好き！ 先生が大好き！ 自分も大好き！ と感じられ、全ての人のウェルビーイングとなる幼稚園を目指す。

### 1 目指す幼稚園

#### (1) 教育目標

○人権尊重の精神を基調とし、心身の健全な育成を図り、主体的に活動する幼児の育成を目指すため次の目標を設定する。

- 教育目標**
- ・自分で考えて行動する子ども
  - ・思いやりのある子ども
  - ・明るく元気な子ども

(2) 教育目標を受けて目指す幼稚園を以下のようにする。

今年度の目標 『多様な人と関わり合い、一人一人が輝く、地域に支えられる幼稚園を目指す』

- 幼児が夢中になって遊ぶ体験を重ねる中で、学びの芽生えを培うとともに、好奇心や探究心を養い自ら考え行動する幼稚園
- 幼児一人一人が自己を十分に発揮し、大好きな ひと、もの、こと との関わりが深まる幼稚園
- 一人一人の育ちのペースを大切に、学びのプロセスを読み取り適切な環境構成、援助を行い、幼児教育の専門家として意欲的に研修に取り組み、高め合う教員、チームとして協力し合い、助け合う教職員がいる幼稚園
- 幼稚園、保護者、地域が子供の健やかな成長のために、関係性を築き、共に幼稚園の教育活動を推進し育てる喜びを感じ、安心できる幼稚園
- 地域の保育所を始め幼児教育施設・小学校・中学校・児童館・高等学校・高齢者施設・療育施設などつながり、顔の見える関係性を構築し、連携していく幼稚園

### 2 中期経営目標（～令和6年）

- (1) 幼児期の豊かな体験を保障し、「主体的・対話的で深い学び」につなげる幼児教育の実践
- (2) 課題の発見と解決に向けて主体的、協動的に教育活動に取り組む喜びを感じる教員の育成
- (3) 区立・地域の幼稚園としての子育ての支援を推進

(1) 幼児期の豊かな体験を保障し、「主体的・対話的で深い学び」につなげる幼児教育の実践

- ① 豊かな感性と感覚・表現力を育む直接体験や自然体験ができるような環境の工夫
- ② ひと、もの、ことにじっくり向き合い夢中になって遊べるための時間、空間、仲間の保障
- ③ 健全な身体の成長を促す、基本的な生活習慣の丁寧な指導と心身の成長を促す遊びの工夫
- ④ 特別支援教育の充実、幼児一人一人の特性に応じた指導の充実

(2) 課題の発見と解決に向けて主体的、協動的に教育活動に取り組む喜びを感じる教員の育成

- ① 協働性・共有を大事にしたチーム力を上げた保育の推進と教師一人一人の自己発揮
- ② 保護者や地域に園の教育の取組やプロセスや成果の「見える化分かる化」と連携を推進する教員
- ③ ICT化を保育の充実・事務処理の効率化等に意識し、活用する教員
- ④ 「働き方改革」を意識し、能率のよい仕事の進め方を進める教職員

(3) 区立・地域の幼稚園としての子育ての支援を推進

- ① 地域、保護者の幼稚園や教師への信頼感・安心感の構築
- ② 子育て相談事業の推進及び関係諸機関との連携
- ③ 地域とつながり、地域の教育力を幼稚園の教育に活用
- ⑤ 未就園児やその保護者に期待され頼りにされる取組の工夫
- ⑥ 子育ての相談・居場所となる地域の幼稚園
- ⑦ 幼保小連携架け橋期を意識した教育の推進

### 3 令和6年度の達成目標と具体的方策

(1) 幼児一人一人が主体的に遊びを楽しみ、自己肯定感を育む保育の展開

- ・「こどもまんなか社会」の実現を目指し、幼児の身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会となるよう、幼児が毎日喜んで登園し一人一人のペースで、生活習慣を体得し、元気にのびのび過ごせる安心・安全・安定した生活の流れの保障し、援助・指導の工夫を図る。（参考こども基本法・こども大綱・幼稚園教育要領 等 実施週案・学年会・日々の記録 等）
- ・「夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成」（令和3年3月改定 練馬区教育・子育て大綱の教育分野の目標、第3次みどりの風吹くまちビジョン改定アクションプラン戦略計画4）や非認知的能力を育めるよう幼児が夢中になって遊び、試行錯誤し、学びの芽生えを培うとともに、好奇心や探究心を養い自ら考え行動する、身近な環境に主体的に関わり、諦めずにやり遂げる楽しさを感じ自己肯定感へつなぐ保育実践のための環境構成と援助・指導の工夫を行う。（参考子ども大綱・こども基本法・第3次みどりの風吹くまちビジョン・練馬区教育・子育て大綱・幼稚園教育要領・令和の日本型学校教育・練馬区幼保小連携推進方針・ねりま幼保小架け橋期のプログラム・幼児教育と小学校教育の架け橋プログラム 等 実施週案・学年会・日々の記録・園内研修会・区立幼稚園教育会研究会 等）
- ・「遊ぶことが大好き！幼稚園大好き！友達大好き！先生大好き！自分も大好き！」を実現する保育を展開し、自分自身や友達を尊重する気持ちや態度を養う中で人権教育を推進する。多様な人と関わる中で共に育つよう、友達への関わりでは、教師がモデルとなり認め合い受け止め合える集団を形成し、大切な存在であることを認識できるようにする。個と集団の学びのプロセスを読み取りながら、記録の中から幼児理解と次なる環境構成・援助の工夫を導き出す。また、一人一人の個性に応じたきめ細やかな指導体制の構築（参考人権教育プログラム・幼稚園教育要領 等 実施週案・学年会・日々の記録・行事の起案・個別の指導計画・人権教育公開保育・巡回指導・園内研修会等）
- ・幼児の心を揺さぶる直接体験、自然体験を保障するための環境を創意工夫し、身近な地域の環境も利用し、大好きなひと、もの、こととのかかわりが深まる幼稚園となるようにする、幼児一人一人の育ちのペースを大切に、幼児期の育みたい3つの資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力などの基礎」「学びに向かう力、人間性等」を目指す。さらに、小学校教育との円滑な接続を図り「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した指導計画の作成と保育の展開を考え保育所、小学校との連携・接続を図る。（参考幼稚園教育要領・ねりま幼保小架け橋期のプログラム 等 実施週案・学年会・日々の記録・園内研修会 等）

- ・多様な動きが体験できる環境、援助を工夫することでそれぞれの幼児が毎日楽しく 60 分以上体を動かすことができるように健康な心と体を育成する。(【参考】幼児期運動指針・幼稚園教育要領 【実施】園内研究・学年会・週案等)
- ・多様な人との関わりが園内の様々な幼児、異年齢の幼児、2 歳児 1 年保育の幼児、教職員の他に、園外の保育所、私立幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校、高齢者施設、療育施設、児童館、地域の方や来園する方々との交流の中で幼児の体験の幅を広げ、人に大切にされることを実感し、人に対する信頼感や思いやり、人の役に立つ喜び、関わり方を学ぶ等の豊かな心を育む。(月に 1 回)

## (2) 教員一人一人が楽しんで保育の資質向上へ取り組み、教職員集団「チームさくら」としてのチーム力へつながる

- ・幼児の多様性を受け入れ、学級経営では園全体の協力・支援体制を整え、きめ細やかな環境構成・援助を行う。また、関係諸機関との連携や協力を図りつつ、一人一人のニーズに合わせた援助を行い、保護者の安心感につなげていく。更に、報告・連絡・相談・確認の徹底で、正確な情報共有、伝達、タイミングを逃さぬ対応でチームの信頼関係を築く。(巡回指導・定期的な講師による指導・介助員との連携・指導方針の共有、個別の支援計画・学級経営 等 毎日実施)
- ・一人一人が安心して自分の力を発揮できるように幼児に寄り添い、温かな学級経営が営めるために教員同士も幼児や保育について話す時間を作り、多面的に幼児や保育を捉え、保育の充実を図る。また、相談し合える協動的な関係性の構築を図り、互いを尊重し合い主体的にチームで教育活動に向かう。教職員一人一人の記録の充実から、PDCA サイクルによる環境援助の方法を見直し、保育の更なる充実を図る。また、共有することで、更に全体の幼児教育の質の向上を目指す。(学年会、園内研修、トークタイム、講師による研修会・園内研究、日々の記録、介助員との連携 等 毎日実施)
- ・教員は幼児教育の質の向上を支える優秀な人材として教員に求められる資質能力としての使命感や責任感、教育的愛情、専門的知識、実践的指導力、総合的人間力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力などを意識して着実なキャリアアップを図り、継続的に学び続ける意欲をもつ。さらに、教員一人一人の持ち味を日々の保育で活かし、主体的に組織の一員として役割を意識し遂行すると共に、全体でもその力を発揮する。「得意分野の発揮」(月に 1 回は、発揮)
- ・ヒヤリハットの意識をもち危機管理マニュアル、地震対策の手引き、不審者対応の手引き学校情報セキュリティ対策ハンドブック、アレルギー対応マニュアル、生命の安全教育、練馬区いじめ問題対策方針等を活用して、他人事ではなく、自分事として捉える危機管理の意識の向上(月に 1 度点検)
- ・ICT やオンラインの活用により、働き方改革を推進し、自分や全体のタイムマネジメントの意識化、効率化を図る。ライフワークバランスを考え、自分の時間を大事にしながら、余裕のある日常をつくり、健全な心身を保持し、教育の充実のために意欲を高める。また、ICT 活用した保育を幼児の豊かな経験につながるよう工夫し、直接体験と共に充実していく。(毎日実施)

## (3) 幼児と子育て仲間と共に育つ喜びを感じる保護者・地域

### ○保護者との共育をつなぐために

- ・幼稚園生活の中で、保護者が幼稚園教育に興味関心がもてる働きかけをしていく。保護者会、保育参加、参観、さくらトーク・こあらトーク・バースデートーク(様々な方法の園長とのグループトーク)などを通し、園の方針や幼児の育ちを知らせ理解と協力を得る。また、保護者同士の自然なコミュニティーの場作りを行う。(月に 1 回)
- ・保護者の悩みや不安に寄り添い、幼児の育ちを中心に保護者と教員が信頼関係を築き、子育ての悩みや喜びを共有できる教師や子育て仲間がいてホットとする幼稚園であり、家庭と共に育てる意識の醸成。発信だけではなく、保護者の思いを聞き取る、相談ができる環境を意識化する。(登降園時の声掛け、個人面談・学級懇談会 等 週 1 回)
- ・子供たちの育ちを分かりやすく伝えるかわら版等の掲示物、園だより、学級だより等の配信、学級懇

談会の工夫、オンラインを含む ICT の活用等で教育内容の見える化、分かる化の伝え方の構築（月に2回）

- ・サークル活動、保護者向けの講演会やトーク、さくらサポーター等のボランティア活動、係活動、保護者会などを通して保護者同士をつなげ、関係性の向上（学期に1回）

#### ○地域とつながるために

- ・地域未就園児親子への“集いの場”としての親子さくらんぼ会、こあらの部屋の開放、保育開放、園庭開放、入園説明会等による子育て支援。児童館・区民館等を利用して子育て相談の場や園紹介などを行う管理職、学校支援コーディネーターや修了生の保護者のボランティア（さくらサポーター）による保護者のニーズに応じた相談の機会。（月に2回以上）
- ・近隣の施設である、保育所、私立幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校、高齢者施設、療育施設との幼児を中心とした意図的な互惠性のある連携・接続を図った充実したつながり。学校支援コーディネーターや学級連絡員や民生委員、団地自治会等と学校評議員とのつながりにより学校地域連携事業の推進、児童館との交流機会の設定など地域の人材と繋がり教育力を向上と共に積極的に発信をし、地域の中での幼稚園としての存在を高める。（月に1回）
- ・保護者、地域が幼稚園に対し安全、安心、安定の3つの安を実感するよう、掲示物を分かりやすく情報をこまめに伝える等の発信を行う。（適宜）

## 4、いじめ体罰への組織的な対応

集団生活のルールを分かるように伝え内面を揺さぶり自分から行動する幼児を育て、道徳性の芽生えを培う指導の充実を図る。

- ① 人権の尊重の理念である「自分を大切にすると共に他の人を大切にすること」を推進する。
- ② 園の生活を楽しみ、自分の力で行動でき、情緒の安定を図るきめ細かな援助・指導を進める。
- ③ 人への信頼感をもつとともに、ルールや約束の意味を理解し自分の気持ちを調整しようとする力を育てる援助する。また、困っている友達や自分と違う考えの友達を受け止め思いやりをもって接する指導を行う。
- ④ 友達の話の聞いたり、思ったこと感じたことを話したりすることを楽しめる援助・指導をする。
- ⑤ 規則正しい生活習慣を身につけ健康な体で心地よく生活を促進する。
- ⑥ 教師が幼児のモデルになることを意識し、多くの目で見、情報の共有を図る。また、一人で悩まず管理職とともに教職員で連携し早期解決を図るチーム対応を行う。
- ⑦ 保護者に対して幼児同士のいじめにつながる言動や対応等について啓発し、共に幼児を育てる。
- ⑧ 「人権教育プログラム」、練馬区人権推進委員を活用した教職員の研修を実施し、人権に対する意識の向上を図る。

## 5 評価

- (1) 園・学級経営における自己の振り返り（年2回 長期休業日前）
- (2) 教員による幼児の変容における評価
  - ① 期（4月～7月）（8月～12月）（1月～3月）指導記録
  - ② 日・週ごとの指導記録
    - ・経験内容 ・活動内容の意味付けを明確にする ・評価・反省・今後の援助の見通し
    - 園内研究のテーマ
    - 『一人一人が力を発揮できる学年経営を目指して～わくわく楽しいごっこ遊び～』
  - ③ 行事終了後、中間・年度末評価
- (3) 保護者による評価
  - ① 行事終了後のアンケート、学年懇談会、個人面談、園長とのトーク
  - ② 年度末アンケート
- (4) 学校関係者評価委員会（学校評議員会）
  - ① 年間3回の実施
    - ・3回目の評議員会にて学校関係者評価
- (5) 評価の結果公表 3月下旬